

第4回 富田林市金剛地区再生指針策定協議会 議事概要

1. 開催概要

○日時：平成29年1月19日（木）午前10時～正午

○場所：青少年スポーツホール2階会議室

○出席者

◆協議会委員 12名

中井委員、溝口委員、山田委員、吉村委員、増田委員、寺田委員、藤本委員、中谷委員
和田氏（東委員代理）、井筒委員、藤原氏（三崎委員代理）
坂本氏【まちづくり政策部次長】（北野委員代理）

◆事務局 3名

尾崎課長代理兼政策係長、坂口地域整備係長、竹内（まちづくり推進課）

◆コンサルタント 2名

小倉、西村（株式会社市浦ハウジング&プランニング）

◆傍聴人 1名

○当日の流れ

① 開会

② 議事

（1）これまでのおさらいと今後の流れ

（2）金剛地区再生指針（素案）

（3）次回協議会について

③ 閉会

2. 当日の様子



3. 議事

（1）これまでのおさらいと今後の流れ

（質疑、意見等は特になかった）

(2) 金剛地区再生指針（素案）

①第1章「金剛地区再生指針とは」

- 地区再生・活性化に向けた取り組みの中で、行政の役割をもっとだしていくべきではないか。取り組みを進める中で、市の他計画で位置づけられた方向性と異なってくることもあると思う。そう考えれば、他計画との整合性をとるのは難しいのではないだろうか。
- 若い世代は、住む場所を選択するにあたって、保育所や学校が大事。ただ、これらは公共施設なので、行政がどう取り組むかが重要になってくる。そう考えると、他計画とどのように整合性を図るかという議論が必要になるのではないか。
→むしろ、この計画で、他計画と整合性を図っていくことを明確に示しておくべきではないか。場合によっては、金剛から発信して、他計画に反映してもらうことも考えられる。
- 取組姿勢について（資料5 P.2）、行政の役割として「活性化に向けた取り組みや住民等との連携をコーディネート」では弱く、「コーディネート・支援」としてはどうか。また、事業者も「地区の一構成員」としてだけでなく、「地区に根差した事業主体」として様々な事業活動を通じてまちづくりに参加しようという表現に変えてはどうか。
→行政の取組方としては「支援」という表現がよいのではないか。コーディネートというと、リーディングしているイメージなので、それは違うと思う。再生・活性化に向けた取り組みは、この協議会などがリーディングしていくもので、行政は専門家の派遣や他計画と整合性をとるための働きかけなどが役割ではないか。他計画との整合性については、どのように働きかけるか、もう少し具体的な記載をしてはどうか。

②第2章「金剛地区の魅力と克服すべき課題」

- 地域団体について（資料5 P.7）、福祉委員会で子育てサロン等の活動をしているので、その点も表現してほしい。
→民生・児童委員と福祉委員会は分けて表現した方がよいのではないか。団体としては別だが、委員は兼ねている方が多い。
→子育て支援や地域環境、日常生活支援のジャンルに、PTAも入れてはどうか。
→すこやかネットは、校区ごとにあり、さまざまな活動を行っている。色んな影響力があるのではないだろうか。
→各学校の住民ボランティアによる通学の見守り隊もいるので、入れてはどうか。
→町会（自治会）等には、子ども会や婦人会等もあり、網羅的に活動されている。

③第3章「金剛地区の目指す将来像」及び第4章「将来像の実現に向けた取り組み項目」

- 「目指す将来像」まちと暮らしの姿（資料5 P.14）について、「新住民を受け入れる」という視点が必要ではないか。多様な人々が訪れる、住むという両方があったほうがよい。
→全体的に新たな住民をどう迎えるかという視点が弱い。一方で、第一章（資料5 P.1）ではそのような視点を取り入れた記述があるので、整合させてはどうか。
→暮らし⇒集えるの順にした方がよい。

→金剛団地は「地域医療福祉拠点化」の対象団地として位置づけ、併せて「近居割」も行っている。金剛地区の将来像とUR都市機構の取組方針が一致している。取り組み2-1①「賃貸住宅の改修等に取り組む」(資料5 P.25)にも、同じ視点で書き込みしていただいたほうがよい。

- 将来像実現のための4つの視点について(資料5 P.15)にも同様の視点が必要である。特に、「2 多様な「住まい」の供給・流通の促進」にあったほうがよいのではないかと。→第4回意見交換会でも、若い人の呼び込みという視点が必要だと意見がでていた。
- 取り組み主体について、この資料に示す「事業者」は、南海電鉄、UR都市機構、地区内の商業事業者等をイメージしているようにみえるが、公共施設の指定管理者等もいるので、そのような視点も入れるべき。民間企業のセンスで住民サービスを向上させるようなことも想定しながら、「事業者」の取り組みを考えるべきである。
取り組み3-3③④(資料5 P.33~34)の寺池公園と金剛中央公園での取り組みは、将来的に事業者の役割も期待できるのではないかと。他の地域では、指定管理者や、地域住民も含めた協議会による運営等を行う公園も増えてきている。青少年スポーツホールも同様の考え方ができる。
- 取り組み3-1「空き店舗を活用し、多機能が複合した生活サービス拠点への転換を図る」(資料5 P.28)について、ピュア金剛をイメージして書いていると思うが、UR都市機構の内部で議論した結果、現時点では「目指す」という表現が適切だと考えている。まずは根本的に方針をどう打ち出すか、またビジネスベースによる仕組みを検討する必要もある。
- 取り組み3-3「“憩える”“楽しめる”“使いこなせる”広場や通りに再生する」(資料5 P.31)について、寺池公園や金剛中央公園だけでなく、各地区の街区公園への広がりも見せた書き方ができないだろうか。現に、町会(・自治会)等で掃除を行っているし、特に子育て世代にとって身近な公園は大切。また、今後の寺池公園や金剛中央公園の取り組みを波及させていくことも考えられるのではないだろうか。
- 取り組み4-1④「地域活動や地域の魅力等の情報の共有化と地区外への発信に取り組む」(資料5 P.36)について、新たな住民を呼び込むための宣伝、広報活動、発信活動が大事にだと思うが、住民や地域団体が中心となって、広く地区外に発信できるだろうか。地区外への発信は、行政や事業者の役割が必要となるのではないかと。→市として、金剛地区のみをPRできるか。それができるのなら、行政も取り組みの中心的主体(◎で表記)となるのではないかと。
- 取り組み1-1②「地域一体となって子どもや子育て世帯を支える」について(資料5 P.17)、地区に若者を呼び込む取り組みとして大変重要な役割であるため、働きながら子育てをしている方々も安心して暮らすことができるという表現をいれられないか。
「地域で子どもや子育て世帯を支える」というタイトルにしてはどうか。地域で子どもや子育てを支えることを共通認識とし、地域みんなで繋がりを持ち、きめ細やかな支援をしていこうという趣旨の表現を入れるべきではないだろうか。
- 取り組み4-1②「まちづくりの中心拠点となる場所を確保する」(資料5 P.35)につい

て、「(仮称)金剛地区まちづくり会議」だけでなく、住民や地域団体の活動を支えるネットワーク拠点としての位置づけもあるのではないかと。

また、「(4)まちを運営する「仕組み」の構築」(資料5 P.35)の取り組みは、エリアマネジメントの一環だと思うので、“エリアマネジメント”という文言を使ってはどうか。

→さまざまな定義があるし、市民の方々には馴染みにくいのではないだろうか。

- 取り組み 1-4①「地域社会ならではの世代間交流の場をつくる」(資料5 P.23)の例示で、福祉施設が出てきているが、最近社会福祉法人でも、地域貢献のためのフリースペースの設置等が行われている。そのような点から考えると、社会福祉法人も地域団体として考えられるのではないだろうか。

→近年、事業者はいろいろな意味で地域貢献しようとしているので、取り組み全般的に、事業者の位置付けがもう少し強いのではないかと。

→地域としてどのように受け入れするか。金剛地区の再生・活性化の取り組みでも、どう意見をいただくか、参加いただくかも重要ではないだろうか。

やはり行政の財政にも限界があるので、民間企業にどう協力いただくかも重要だと思う。

④第5章「金剛地区再生の実現に向けて」

- 取り組みの展開イメージ(資料5 P.39)について、凡例を書いておいてほしい。
- 取り組み体制(資料5 P.38)について、「(仮称)金剛地区まちづくり会議」が現在の意見交換会、「(仮称)金剛地区再生指針推進協議会」が本協議会の発展型の組織となるのか。
→まちづくり会議は、地域団体も入るイメージではないかと。
地域団体というのは、町会(自治会)等や、きんきうえび、ふらっとスペース金剛、けあばる金剛等のイメージである。法人化、組織化していなくても、グループで活動されてる方も巻き込むことができればよいのではないだろうか。
- 推進協議会とまちづくり会議のメンバーについて、NPOや地区内事業者などの一部が重複することになる。このような詳細については、次回協議会で議論したい。
→実際に組織として動き出してから自由に改変・改善していかなければならないということを書いておくべきではないだろうか。
- 本日の意見は、パブリックコメントまでに反映しておく。またパブリックコメントにおいても、気づいた点等があれば、意見を出していただきたい。

(3) 次回協議会について

- 次回協議会は、3/22(水)午後2時～(富田林市役所内にて)を予定している。
- 今週末1/21(土)には、大谷大学大学生によるまち歩きワークショップ等の報告会(青少年スポーツホールにて)を開催する。
- 2/19(日)には、エコーロゼ金剛東地区センターにて、ひろとんが開催されるので、金剛地区再生指針に向けた取り組みを紹介する予定。